

普及活動情勢報告（平成 29 年 12 月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

増収と作業の効率化に向けて ～JAとさしニラ部会がJAコスモスニラそぐりセンターを視察～



作業を熱心に見入る生産者

JAとさしニラ部会は、12月14日、個々の農家での調整作業を代替するJAコスモスニラそぐりセンターを視察し、部会員8人が参加しました。その後、関係機関を交えて情報交換会を行い、農業改良普及課からは、電照による増収技術や環境制御技術導入に係る補助事業を紹介しました。

参加者からは、そぐりセンターでの作業能力、稼働状況、利用農家の感想、経費負担、調整後の品質やJAコスモスでの環境制御技術導入状況等、多様な質問が出され、関心の高さが伺えました。

今後、農業改良普及課は、JA等と連携し、労働力確保や環境制御技術に係る勉強会を引き続き開催します。

労働力確保対策の取組 ～土佐市の土佐文旦農家とJAとさし集出荷場の労働力不足解消に向けて～



労働力確保について協議中

県移住促進課から「ふるさとワーキングホリディ」の受け入れの打診があり、12月4日にJAとさし文旦部会長、JAとさし営農指導課、土佐市農林業振興課、農業改良普及課で協議しました。その結果、JA・部会で出荷調整作業の受け入れの人選を行うことになり、市は、参加者へ土佐市のPRを検討することになりました。

12月5日には、JA集出荷場への障がい者の受け入れについて、JAとさし集出荷場担当者、県障害保健福祉課、農業改良普及課で協議し、キュウリの10kg箱詰め等の雇用を検討することになりました。

農業改良普及課では、今後とも土佐市労働力確保対策PTと連携し、労働力確保対策を進めます。

ユリ類の安定生産を目指して ～土壌硬度測定実習～



自分で実際に硬度を測ってみる

農業改良普及課は、若手ユリ農家の基礎技術勉強会を継続して開催しています。

11月28日には土壌の勉強会（硬度の測定実習）を行い、自分のほ場の土壌条件を知りたい（生育に課題がある、新たなほ場で栽培を始める等）農家8人が参加しました。

参加者からは「ほ場によって土壌条件が異なることが分かった」「測定してみて親世代が日頃言っている圃場の特徴が実感できた」等の声が聞かれました。

農業改良普及課では、来年1月にはこの結果をふまえ、「自分のほ場を知ろう」をテーマとした勉強会を開催することになっています。

ショウガで GAP をやりませんか？
～JA とさしショウガ部会研修会～



自ら点検作業を行う生産者

JAとさしショウガ部会研修会が12月11日に開催され、農業改良普及課から、GAPについて説明を行いました。

最初はGAPについてあまり認識していなかったが、その後、ショウガ版GAP点検シートを用いて、生産者自らが点検作業を行うことでGAPが理解され、項目の内容について多くの質問が出されました。その後の話し合いの中でも、生産者からGAPの話が出るなど、関心が高まってきています。

今後も農業改良普及課では、GAPの取り組みを推進し、より安全・安心な農作業を目指していきます。